



関西大学
体育会野球部

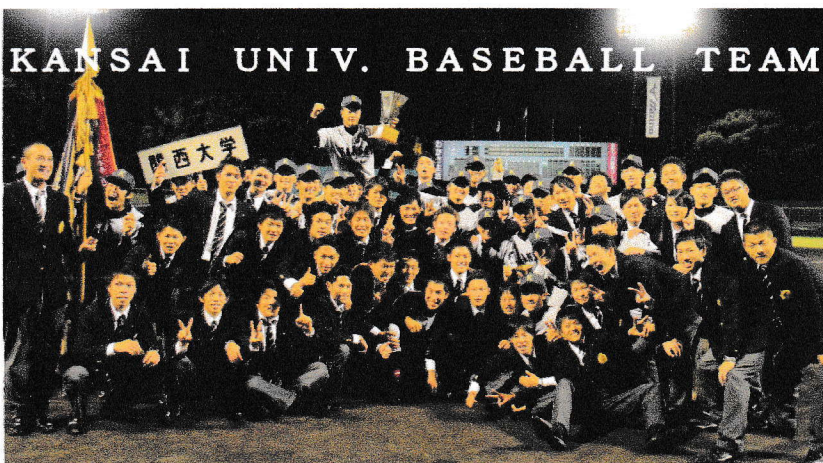
奪首×Dash!

第20号
2015. 1

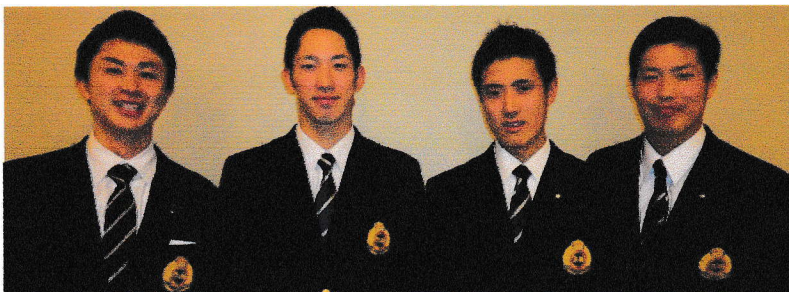


TOPICS

- ・新チーム始動
- ・リーグ戦優勝祝賀会
- ・秋季リーグ戦
- ・秋季新人戦
- ・関西地区代表決定戦
- ・小中体験入部
- ・明治神宮大会
- ・編集後記



2015年スローガン決定! ～熱くなれ～



「熱くなれ」をスローガンに掲げ、新チームが始動しました。3年生全員でミーティングを行い、部員全員が「熱くなろう」という気持ちを持ち、練習中からも常に意識できる、という理由から、このスローガンに決定しました。新チーム主将には学生コーチを兼任し、広い視野を持ち、声でチームを引っ張る石丸亨（経3・東福岡）、副主将にはチームの大黒柱である石田光宏（経3・近江）、チーム一熱い想いをもった平岡志大（商3・智辯和歌山）が就任。技術面だけでなく、精神面からもチームを支えます。また、主務は昨年に引き続き鍋島庸高（人間3・桃山学院）が務めます。

今年こそは、神宮球場に戻り、絶対目標である「全国制覇」を成し遂げることができるよう、取り組んで参ります！今後とも温かいご声援よろしくお願いします。（写真は左から鍋島・石田・石丸・平岡）

主将・石丸 亨

この1年間、異色ではありますが主将兼学生コーチを務めさせていただくことになりました。プレーでチームを引っ張ることは難しいですが、人一倍声を出して、チームの士気を上げ、選手一人ひとりのやる気を引き出せるように頑張ります。部員全員が昨季の神宮での悔しさを忘れず、日々の練習に取り組んでいます。スローガンである「熱くなれ」という言葉を胸にチーム一丸となれるように頑張ります。

副主将・石田 光宏

昨季は明治神宮大会で敗れ、とても悔しい思いをしました。しかし、全国の舞台において自分たちの力で試合を戦うことができ、大きな収穫となりました。これからも努力を続け、自分たちらしさを出した「いいチーム」を作ります。個人としては、全国制覇に繋がるピッチングをしたいと思います。ご声援よろしくお願いします。

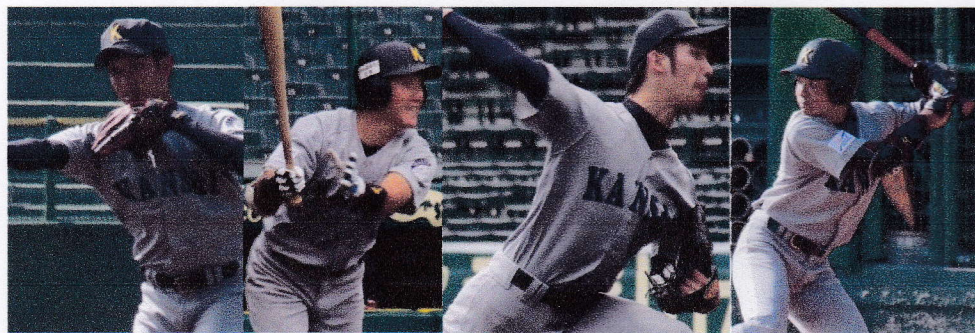
副主将・平岡 志大

新チームが始動し、グラウンドでは来季に向けて目をギラつかせながら毎日毎日走りまくっています。まだまだ熱くなれるこの集団の前に立ち、副キャプテンとして引っ張っていきます！来季は必ず連覇します。応援よろしくお願いします。

秋季リーグ戦優勝

早瀬監督就任後初のリーグ戦となった春季リーグ戦では3位に終わった悔しさを胸に、挑んだ秋季リーグ戦は39季ぶり34度目のリーグ優勝を達成しました。最終節の同立戦で同大が勝ち点を挙げ、近大に勝利することが優勝の絶対条件となった最終戦。同点のまま迎えた8回、藤嶋(人間4・神港学園)の安打などで一死三塁の好機を作ると湊打(総情3・奈良大附)が決勝打を放ち、優勝に望みを繋げます。翌日の同立戦で同大が立命大から勝ち点を挙げ、見事優勝を果たしました！

表彰選手 ～優勝の立役者たち～



左から

- ・江原 祥太(人間4・履正社)
最優秀選手、ベストナイン(二塁手)
- ・西田 尚寛(人間3・東大阪大柏原)
首位打者、ベストナイン(三塁手)
- ・石田 光宏(経3・近江)
最優秀投手
- ・山口 晃平(政策4・東福岡)
ベストナイン(外野手)

関西地区代表決定戦 ～「関西一」の称号～

11月3日(月・祝)南港中央野球場には関大生、大学関係者、OB、OG、校友、保護者をはじめ1000人を超える大応援団がスタンドを埋め尽くしました。

試合はエース石田が立ち上がりからテンポの良い投球で奈良学園大打線を寄せ付けず、4回まで1安打に抑えるピッチングを披露します！一方の打撃陣は、初回山口の四球でチャンスを作り、西田尚が右前適時打を放ち先制、3回にも満塁の好機で主砲藤嶋が中前適時打で2点を追加し、試合を有利に進めます。5回に2点を返されるものの、8回途中から登板した畑瀬が全球ストレートという気迫あふれる投球で3-2で勝ち、関大を42年ぶり4回目の明治神宮野球大会出場に導きました！

試合後にベンチ、スタンドが一つになり学歌、逍遥歌を斉唱し、改めて関西大学、また野球部の結束が強まった瞬間でした。



優秀選手 藤嶋 宏俊

皆様のご声援があり最終学年でのリーグ優勝を成し遂げ、念願の明治神宮大会へと出場することができました。関西地区代表決定戦では優秀選手に選んでいただきました。神宮出場が決まる大切な試合で自分の力を発揮し、チームの力になれたことがなにより嬉しかったです。結果として目標である「全国制覇」を達成することができず、悔しい思いもありますが、後輩たちが達成してくれることと思います。これからも、関西大学野球部にご声援をよろしくお願い致します。

第45回記念明治神宮野球大会 ～42年越しの想い～

42年ぶり4回目の出場となった第45回記念明治神宮野球大会は、開会式の前に明治神宮に出場校のメンバー全員で参拝から始まりました。非常に歴史と重みのある大会ということを感じました。

関大は15時50分試合開始ということもあり、寒さが非常に厳しい中でしたが、神宮球場はグラウンドの選手たちと、スタンドの応援の熱気で包まれていました。試合は、先発の石田が初回から力のこもった投球を見せ、緊張感のあるゲーム展開となります。試合が動いたのは8回、先頭の仲尾(文4・上宮太子)が右前安打で出塁し、送りバントなどで二死三塁のチャンスを作ると、リーグ戦ベストナインの山口が中前適時打を放ち、待望の先制点！しかし、その裏同点に追いつかれ、試合は延長タイブレークに突入します。関大の攻撃は、西田尚からの打順を選択しますが無得点に終わり、その裏に失点を許しサヨナラ負けを喫する結果となりました。

この日、大学からは応援バス7台、総勢300人で神宮に向かいました。OB、OG、校友を含めると代表決定戦をも上回る観客が関大のスタンドを埋め尽しました！神宮という最高の場所で野球ができたことの幸せと、野球部を応援していただいたすべての方への感謝の気持ちを感じました。今回の悔しさを次の世代に引き継ぎ、神宮という大舞台になんとしても戻ってきたいと思います。



早瀬 万豊 監督コメント

平成26年の野球部活動は11月16日(日)の明治神宮野球大会対創価大学をもって終了致しました。皆様には平素より野球部に対するご理解、ご支援を頂き誠に感謝しています。今年度、春季リーグ戦は3位でしたが、秋季リーグ戦はお陰様で19年ぶりのリーグ優勝、そして第45回明治神宮野球大会に関西地区第一代表として出場することができました。神宮では延長タイブレークの末敗れ、悔しい思いをしましたが、スタンドからの応援も借りながら「チーム関大」をアピールできました。チームは11月24日(日)に新体制でスタートしました。今後とも関大野球部をよろしくお願い致します。最後に、4年生へ。野球部卒業本当におめでとう。皆は私の誇りです。今後の活躍を大いに期待しています。



江原 祥太 主将コメント

全国のどの大学にも負けない熱いご声援ありがとうございました。秋季リーグ戦では、どんな展開でも諦めずベンチとスタンドが一体となって戦った結果、19年ぶりのリーグ優勝、42年ぶりの明治神宮大会出場を決めることができました。ぜひ後輩たちには、私たちが達成できなかった「全国制覇」を目標にこれからの練習に取り組んでもらいたいです。これまで多くのご支援をいただいた野球部OBやOG、学校関係者、校友の皆さま、熱い声援をくださった応援団の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、大学野球生活を一緒に過ごした最高の仲間を誇りに思います。4年間、本当にありがとうございました。

華やかに優勝祝賀会を開催

11月25日（火）新阪急ホテルにて関西大学野球倶楽部主催の秋季リーグ戦優勝祝賀会が行われ、数多くのOB、OGの方々にご参列いただきました。司会は、阪神甲子園球場で場内アナウンスをされている中西史恵氏（H18入）にいただきました。

田尻部長、早瀬監督からは、シーズンを

通して活躍した選手、並びに裏方でチームを支えた選手たちに対し、労いの言葉をかけていただきました。会場内は終始会話が絶えず、世代を超えた再会の場となったと同時に喜びを分かち合う機会となりました。また、OB、OGの方々と選手が交流する場面も多く見受けられました。今年は創部100周年という節目の年でもあるため、この伝統と期待を背負い、来シーズンも日々精進してまいります。

関西大学野球部 優勝祝賀会



小中体験入部



12月7日（日）、関西大学主催の吹田第一中学校区の小中学生を対象とした一日体験入部が行われました。たくさんの小中学生の中には女の子の参加者もあり、大きな声を出し、活発に動く姿が見られました。選手たちは、終始和やかな雰囲気で行い、一緒に試合を行う中で交流を深め、最後には子供たち、選手全員が笑顔に包まれました。

普段は指導される側の立場として野球に関わっている選手たちですが、指導する側に立つことで、初心に戻り、改めて気付いたことや、感じたことが

たくさんあったと思います。そして、野球の技術はもちろん、一人の人間として、成長できたのではないのでしょうか。この機会は選手たちにとっても、非常に有意義な時間となったと思います。そして、何よりもこの体験に来てくれた子どもたちが今以上に野球を好きになってもらえれば嬉しいです。



秋季新人戦も優勝

11月11日(火)から13日(木)までの3日間、豊中ローズ球場にて秋季新人戦が行われました。

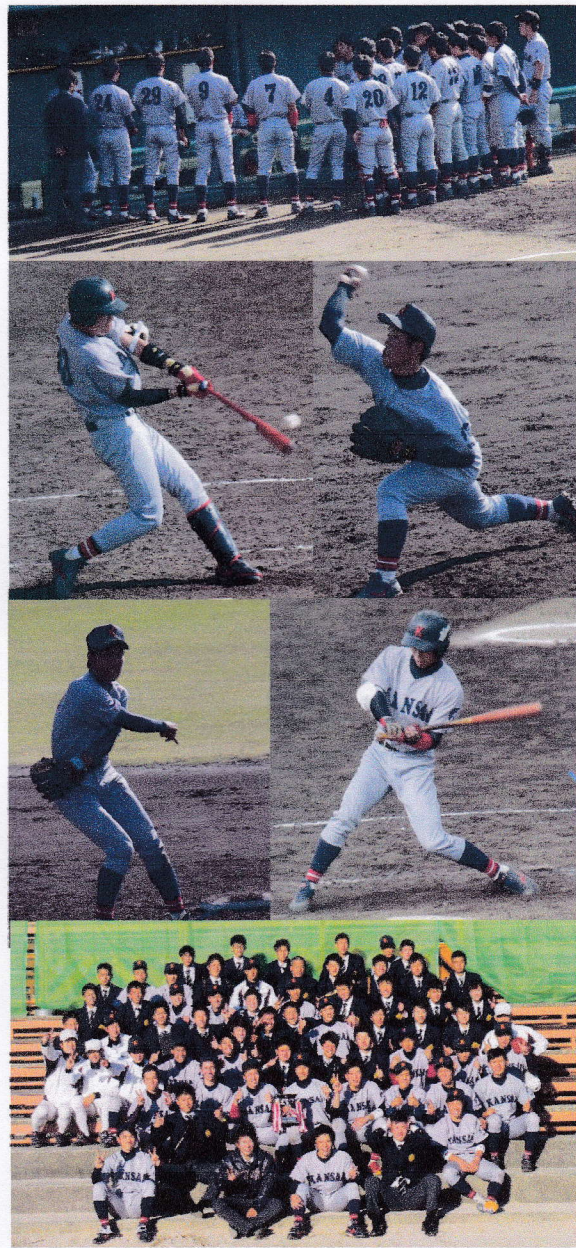
1回戦の相手は京都大学。先発は、秋季リーグ戦でも実績のある水師(経2・大社)。3回を無失点に抑えリズムをつくと、勝岡(人間1・報徳学園)の左前適時打で先制し、勢い付いた関大打線は8回までに10得点!最終回は阪本大(経1・履正社)が締め、10-1という結果で大勝しました。

続く準決勝の対近畿大学戦は、序盤から大きく試合が動きました。阪本将(法1・智辯和歌山)が3打点の活躍を見せ、2回に一拳5得点。投げては先発の吉川(文2・関大北陽)も、テンポの良い投球で流れを作り、7-1で快勝し、決勝戦へと駒を進めました。

そして迎えた決勝戦の相手は関西学院大学。偶然にも関関戦となり、選手たちはより一層気合いを入れて試合に臨みました。先発を任された市場(人間2・近江兄弟社)は安定した投球で4回を無失点に抑えます。一方打撃陣は、森島(文2・大阪桐蔭)の右中間2点適時三塁打をはじめ、14安打12得点と打線爆発!5回までに先発全員安打を達成します。後を任された武藤伸(経2・岐阜東)、福田(人間2・興国)が大量リードを守りきり、12-1で関大が勝利し、優勝を勝ち取りました。

3位という結果に終わった春季新人戦の悔しさを晴らすことができました。最優秀選手には森島が選出されました。

新人戦は、1・2年生が主体となって試合に出場する貴重な機会です。この経験を生かし、切磋琢磨してここから一人でも多くリーグ戦メンバーに入ることを期待しています!



新人戦主将 藤井 勝利(政策2・倉敷商)



春の新人戦は悔しい結果に終わってしまい、秋こそは必ず優勝するという強い気持ちで挑みました。一人一人が自分の力を発揮した結果、優勝することができました。これからは来春のリーグ戦に向けてしっかりと練習を頑張っていきます。ご声援ありがとうございました。

最優秀選手 森島 貴文(文2・大阪桐蔭)



今回の新人戦は今まで以上に熱く、優勝だけを目指して戦った結果優勝することが出来、僕もその中で一緒に戦いその結果が最優秀選手に選んでいただけたと思います。これからもチームの為に頑張りたいと思います。

編集後記



左から、吉岡、鍋島、大本、玉木

こんにちは。「奪首×Dash!」第20号はいかがでしたか?今回は秋季リーグ戦優勝、関西地区代表決定戦優勝、明治神宮大会出場、新人戦優勝など、盛りだくさんの内容でお伝えしました。現在、野球部は新チームとなり、3年生を中心に日々練習に励んでいます。今季も優勝のご報告ができるよう、さらにチーム一丸となり頑張ります。今後ともご声援よろしくお願い致します。